

3 馬と仲良くなろう

馬とふれあうための知識 馬という動物の性格、馬の行動の見方、接近の仕方など

馬の性格

■おとなしいが怖がり

草食動物である「馬」は、かつて野生だった時代はいつ肉食獣に襲われるか分からないという環境の中で暮らしていました。ですから、いち早く危険を察知し、自己防衛のために素早く逃げ出すという本能が家畜化された現在でも強く残っており、非常に感受性が強く環境変化や接する人の態度や言葉の調子に敏感にも反応します。

生まれつきおとなしく、人にもよくなつく彼らですが、周囲の物音や人の関わり方によっては、危害を加えるつもりは無くても、危険を避けるためとっさに動いたことが、人を巻き込んでの事故につながりかねないのです。

■一度覚えたら忘れない、嫌なことほどすぐ覚える

状況変化を素早く察知するために、よく発達した眼、耳、鼻等によって、馬は常に周囲を観察しています。その中でいつもと違う音や動きを察知したとき、馬は「危険」と判断し、自己防衛の行動をとることになります。そして、この行動を日々繰り返すことによって彼らは学習し、眼、耳に入る情報の意味を理解していくのです。

ですから、怖いこと、嫌なことがあると人の指示もなかなかきいてくれませんが、ちょっと怖いけど楽しい事もあるな（例：ニンジンをもらえる）と理解してくると、馬はやがてそのことを受け入れてくれるよう

になります。この特性を利用して、人は馬を使いやすく調教していくことができるのです。

こうして覚えた記憶は、長い期間忘れることがないので、馬にいやな記憶を残させないような正しい接し方を心がけることが大切です。

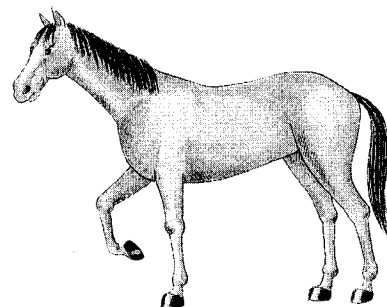
※これらは馬についての一般的な性格です。実際には一頭一頭その程度が異なっています。ですから、その馬がどういう性格なのかを常に親しみの気持ちをもって関わることで見極め、信頼関係を築いていくことが大事なことです。

馬の気持ちの見方

馬は耳の動かし方やしぐさ、鳴き声などによって自分の気持ちを表すことがあります。ここでは、よく見られるものをここで紹介したいと思います。

◆前肢で地面を引っかくような動作を繰り返す（「前がき」といいます）

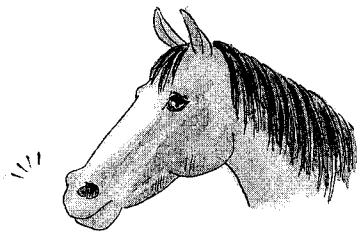
→お腹が空いたときや人に何かを催促するときによ



く見られます。ニンジンを見せただけで前がきを始める馬も多いのでとても分かりやすい動作です。ただ体に苦痛を感じているときにすることもあるので、つらそうな表情の時には乗馬クラブの人に伝えましょう。

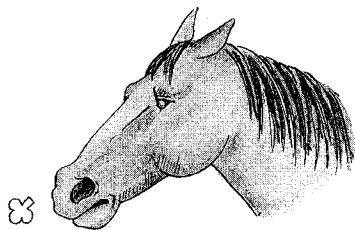
◆耳をピンと立てて、一つの方向にじっと眼を向けて鼻の穴を大きく開き、音をたててふうふうと息をする。

→その方向に何か気になることや嫌な音があり、かなり警戒している時に見せる動作です。優しく声をかけながら首をなでて、早く馬を安心させてあげましょう。ちなみに放牧に出したときも尾も高く上げて同じような動作を見せますが、これは気分爽快なときです。



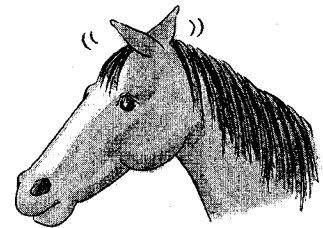
◆耳を強く後ろに伏せて、鋭い目つきをしている

→人や他の馬に対して警戒したり、敵意を持っている時に見せる仕草です。噛んだり、蹴ったりすることにより事故につながる恐れもありますから、このようなときに不用意に近付いたり、手を出すことは非常に危険ですからやめましょう。



◆左右の耳を小刻みに動かして方向が定まらない。また目線も定まらず足踏みをするような動きをしながら鼻を大きく開いている。

→何かに対して不安を感じている時に見せる動作で、気が弱い馬によく見られます。優しく声をかけて安心であることを伝えましょう。

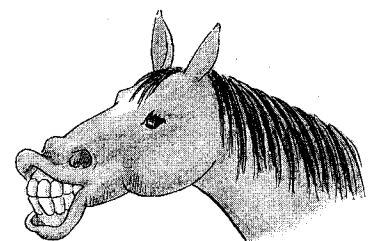


◆鼻を長く伸ばし、顔をかたむける

→気持ちいいことがあると見せる仕草です。たてがみの付け根やき甲の辺りをブラッシングしているとよくみられます。人がかゆいところをかいてもらって「そこそこっ!」と言っているようなものです。

◆顔を高く上げて上唇をめくり歯と歯ぐきを見せる(「フレーメン」、俗に「馬が笑う」とも言います)

→オスの馬がメスに対し求愛しているときや刺激の強いにおいを嗅いだ、食べ慣れないものを食べた時などに見せる動作です。オスが発情し、興奮し過ぎている時には近付かない方がよいでしょう。



3 馬と仲良くなろう

- ◆「ヒーーンッ!!」という甲高く、短いなき
→突然何かをされて痛みを感じたり、強く何かを周りに訴えかけたいときに発する声です。直後に走り出すこともありますから気をつける必要があります。
- ◆「ヒヒーン」という高い調子で、震える感じをとまなななき
→遠くにいる仲間呼びかけたり、探したりするときに発します。洗い場などに1頭だけで残され、寂しいときにもこのように鳴くことがあります。
- ◆馬房の中で低い声でうめいたり、うなったりしながら力なく寝そべり立とうとしない。また、餌を食べ残し、立ち上がり馬房から出そうとしても元気がなく歩きたくなさそうにしている。
→「セン痛」(12ページ参照)という病気の恐れがあります。このような場合にはすぐに乗馬クラブのスタッフに様子を伝えましょう。

馬は自分の意思どおりに耳を動かすことができ、その動きは目の動きとも連動しています。ですから、馬がそのとき何に対して気を向けているかを判断するには、耳の向きに注意してみるとよいでしょう。あなたが馬に近付いていくとき、馬はきっとあなたの方向に耳を向けるはずです。

あくへき 馬の悪癖

馬の悪い癖の主なものを紹介します。先に説明したように、馬は悪い事を一度覚えてしまうとなかなかそ

れを直すことができません。これらの癖も初めは恐怖感や欲求不満からの小さな動作だったものが、時間がたつにつれて習慣となってしまったものなのです。

◆蹴癖(しゅうへき)

→文字通り蹴る癖のことです。不用意に近付いたり、大きな声を出して驚かせたりすると、後ろ肢で蹴ることがあります。これは悪意によるものだけではなく、自分に危害が及ぶのを恐れての防衛行為の場合もあります。ですから、優しく声をかけて近付くようにし、馬の後ろには回らないようにしましょう。

◆咬癖(こうへき)

→咬みつく癖のことです。多くの馬に見られるものではありませんが、人との信頼関係がこじれてしまい、人に対して悪意をもっている時にします。また、悪意はいなくても不用意に手を出したり、エサを食べている時に近付くと威嚇のためになることがあります。

◆さく癖(さくへき)

→馬房の中で、飼い桶や扉のすき間などに口をくわえあて空気を飲み込む癖のことで、その音から「グイッポ」とも呼ばれます。ずっと馬房の中にいて退屈な時間が続くことがきっかけになってやりはじめ、他の馬が真似をして覚えてしまうことがあります。先の2つの癖と違い、人に対して直接害を加える癖ではありませんが、飲み込んだ空気が原因となって「セン痛」になることがあります。

◆ゆう癖 (ゆうへき)

→馬房の中で、少し前肢を払って左右に体を揺することを繰り返す癖のことです。別名「舟ゆすり」ともいいます。やはり退屈な時間が長く続くと始めてしまうもので、馬を飽きさせないように適度な運動が大切です。

◆後退癖 (こうたいへき、「あとびき」とも言います)

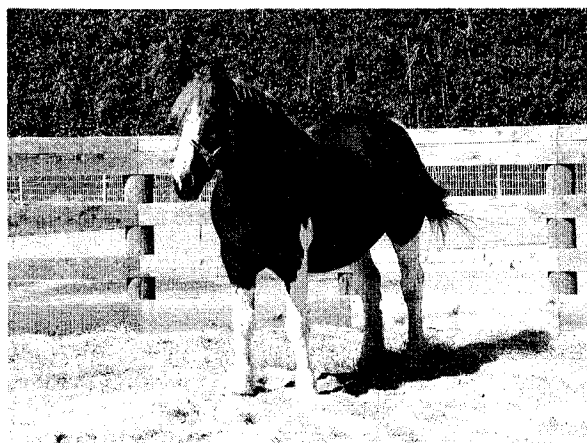
→何かを嫌がったり、驚いたりしたときに後ろにのけぞりながら後退していくことです。後退していったお尻や肢に何かさわるとさらに驚いてしまうこともあります。そのような場合には、優しく声をかけて落ち着けてあげましょう。

馬に近づく

養護社

■馬が繋がれていないとき (馬房内や放牧場内等で)

耳の動きや全身の仕草を眺め、馬が落ち着いている事を確認しましょう。そして低いトーンの声で優しく馬の名前を呼んだり、「ホーラ、ホーラ」と声をかけ



▲馬に近づくには

ます。馬が人に気づき、警戒していない様子でしたら静かに馬の左側に近寄っていきましょうそれは、馬は、人が左側から近づくように教えられているからです。

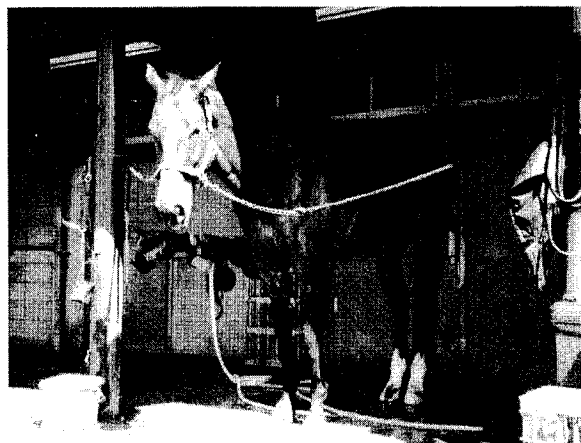
初めて接する馬で、その馬の性格が分からない時には、十分に声をかけて馬の様子を確認してから近づき、ニンジンなどを与えてから、左側から首、肩、背中を優しく叩いて愛撫してやります。

■馬が繋がれているとき (洗い場で)

馬が落ち着いていることを最初に確認することは他の場合と同様です。そして、左斜め前方から馬に近付き、1mくらい手前で一度止まり、もう一度馬の目や耳の様子を確認してみましょう。あなたのいる方に耳を向け、落ち着いている様子なら、静かに声をかけながら左肩側に近寄り、首をなでてやります。

※ 馬に近付く際は、絶えず馬の眼や耳に注意し、安全を確認しなければなりません。こわごわ近寄るとかえって馬を警戒させてしまいます。「今行ける！」と判断したら、ためらわないで近寄った方がよいでしょう。

(深野 聡)

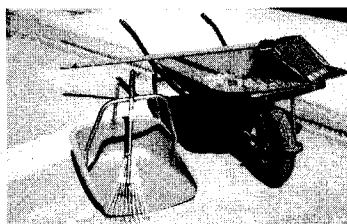


▲洗い場のような

馬の世話 厩舎の掃除、給餌、手入れの方法

きゆうしゃ 厩舎掃除の仕方

馬房（馬が寝起きする部屋）にいる馬は安全のために、洗い場などの場所に連れ出してから掃除を始めるのがよいです。



▲掃除の道具

馬房にはオガを敷いたものとワラを敷いたものがありますが、乗馬クラブでは現在「オガ馬房」が一般的ですのでこちらのやり方を紹介しましょう。

- ①熊手やふるいで馬房に落ちているボロをとり、一輪車に載せ運び出します。専用の道具を決めているクラブもありますから何を使ったらよいかスタッフに聞きましょう。
- ②オシッコ等を吸い込み過ぎて汚れたオガがあれば、それも取り除きます。
- ③馬房のオガをひと通り掘り返し、クッションのいい状態にしたら最後に平らになります。
- ④一輪車に積んだボロ等をボロ山に捨て、最後に、



作業で汚れてしまった通路をホウキできれいに掃きましょう。

餌のやりかた

乗馬クラブでは1日に3、4回、決められた時間にエサを与えています。主なエサは牧草と穀類です。牧草は、「乾草」という干した草のものが、「ヘイキューブ」という乾燥・圧縮しブロック状になったもので与えます。穀類は大麥、エン麦、とうもろこしなどです。これらの他にミネラル分の摂取のために塩、カルシウム類を与えています。

エサの分量は、馬の体格や健康状態によって1頭1頭異なります。スタッフに尋ねてみましょう。



▲飼料庫におかれたさまざまな餌



▲ヘイキューブ

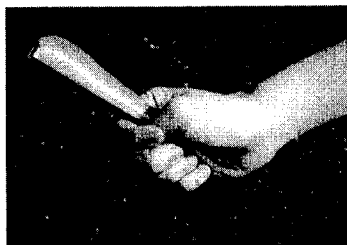


さまざまな餌 ▶

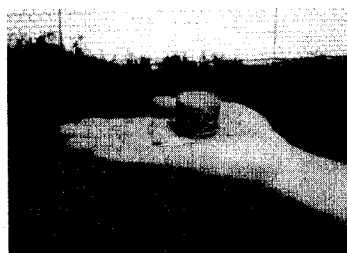
ニンジンの与え方

調理学

ニンジンは馬にとって大好きなおやつです。一緒に活動をした後、ニンジンを与えることによって「ごくろうさん」や「ありがとう」の気持ちを馬に伝えることができます。馬はとてもよい鼻を持っていますから、ニンジンを後ろ手に持って隠していても、近



▲写真1



▲写真2

づくにつれてそわそわし始めることでしょう。馬が誤って指を噛んでしまわないようにニンジンの切り方、食べさせ方を工夫しましょう。

写真1は、ニンジンを実にタテに4分割したものです。ジャンケンのグーの形を作って細い方を握り、馬の方に差し出します。

写真2はニンジンをつつ切りにしたものです。この場合は、手のひらに載せ、馬の横に立って鼻先に手を持っていきます。

いずれの場合も、ニンジンをお早く食べたくて仕方がない馬は顔を前に突き出してきます。特に初めての体験であったり、からだか不自由で馬の動きを避けることが難しい子の場合、この動きに恐怖感を持ってしまふことがあります。これを避けるためには、洗い場に馬をつないだ状態で行う、放牧柵や馬房の外から行う

など、ニンジンをおやる場面を工夫するとともに馬のスタッフや指導者が馬の動きを抑えたり子どもの介助をすることが大切です。

一旦やり方になれてくれば、馬にニンジンをおやることはとても楽しい活動の一つになり、ニンジンをお切るなど、きつと家や学校で準備をしてくるようになるでしょう。

手入れのときに気をつけること

調理学

馬の手入れをおすることは、馬とコミュニケーションをとり仲良くなることでもあり、馬の健康をチェックをする機会でもあります。ただ、馬は大きな動物ですから、危険防止のために次のようなことに気をつけましょう。

◆馬に足を踏まれないように

→ブラッシングなどの手入れは馬によってははくすぐったいと感じて、左右に動くことがあり、その際に人の足が踏まれる恐れがあります。馬の^{あし}肢がどこにあるのか常に注意を払うことが必要です。

◆顔のそばでは噛まれないように

→馬によっては、手入れを嫌がって人に噛みついてくる場合があります。馬の表情にも常に意識を向け、悪意をもっていないかを確認めながら手入れをします。

◆両膝を曲げてしゃがみこまない

→とっさのときに、しゃがみこんだ状態からでは逃げる動作が遅れてしまいます。危険防止のため、常に機敏に逃げられる準備をとり、蹄の手入れの際にも中腰ぐらいまでの姿勢で行うと良いでしょう。

3 馬と仲良くなろう

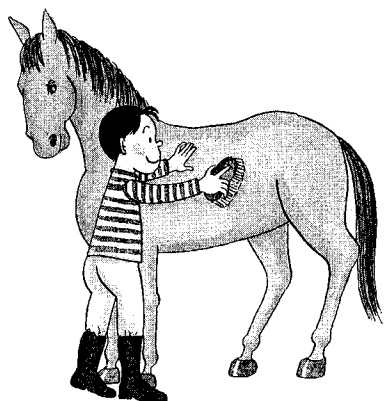
ブラッシングの効果とやり方

監修 藤原 洋

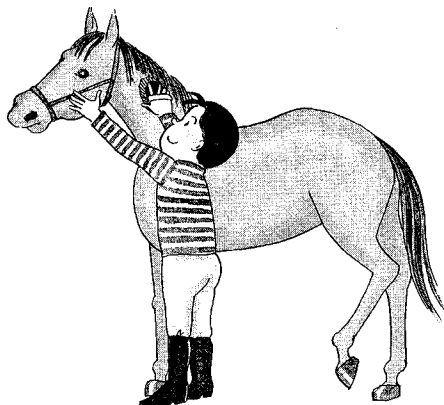
●効果

手入れの基本となるのがブラッシングです。皮膚の汚れやフケを取り除くことができ、マッサージ効果によって血行がよくなることから馬の健康増進にも役立ちます。また、スキンシップにより人馬の信頼関係を深めることも期待できます。

ブラッシングをしながら、馬体に新しい傷口を見つけたら乗馬クラブの人に伝えて指示を仰ぎましょう。



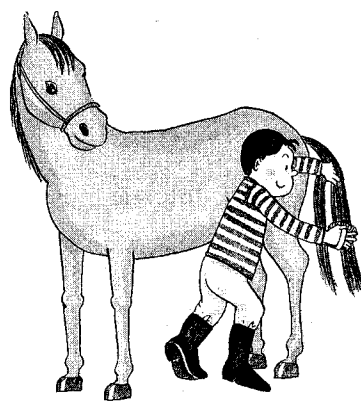
●根ブラシで大きな汚れを落とす



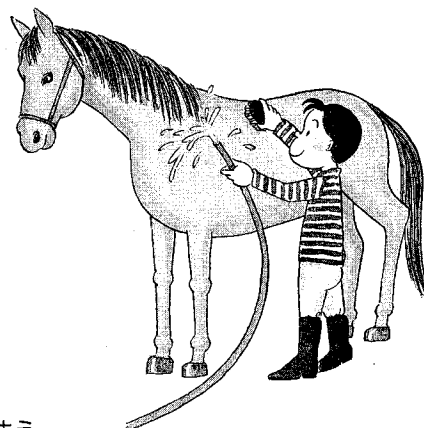
●毛ブラシで毛並みを整える

●やり方

まず「根ブラシ」を毛並みに沿って大きくはらうことで、馬体についたオガやワラ、ボロ等の大きな汚れを落とします。続いて「ゴムブラシ」や「プラスチックブラシ」で全身の毛を逆立て、毛の根元のフケをかきおこしておきます。最後に「毛ブラシ」でフケを取り払い毛並みを整えていきます。時々「鉄（金）ぐし」で毛ブラシにたまった汚れを落とす事を忘れないようにしましょう。



●くしでしっぽの毛を整える



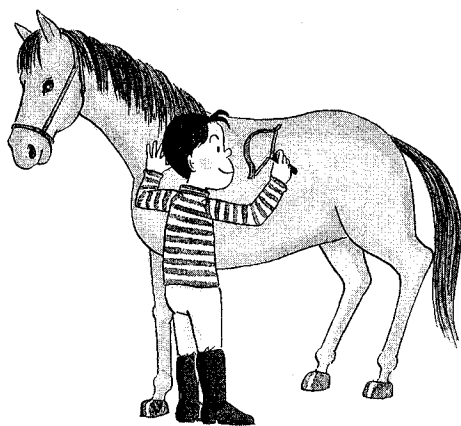
●全身を洗う

●丸洗い

運動の後馬が全身に汗をかいていたり、放牧後の汚れがひどいときにはぬるま湯または水で全身を洗います。方法は、まず心臓から遠い後肢から徐々に湯または水を全身にかけはじめ、全身をぬらします。次に、体の高いところから洗いはじめ、上体が済んだところで「汗こき」で水をよく切ります。

その後全ての肢をよく洗い、砂等をきれいに流してから全身をタオルで拭いて乾かします。寒い季節で馬体が冷えてしまうような時期には、「馬衣」という馬の服を着せ歩かせながら乾かすこともあります。馬体が乾いたらブラッシングをして毛並みを整えましょう。

●汗こきで水を切る



ひづめ
蹄の手入れ



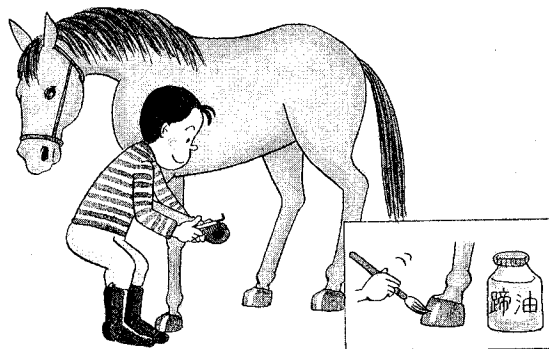
蹄にボロや馬房のオガやワラなどが詰まったままになっていると、不潔な状態が長く続くことになり、さまざまな蹄の病気の原因となります。ですから、毎日の蹄の管理が重要です。



▲蹄

運動をする前には「鉄び」で蹄に詰まったものを取り除き、グリップ（足首の返し）が効くようにします。また、運動後は砂、泥を洗い流し、蹄の水分を保持・補給するため蹄油を蹄油ブラシで塗っておきます。なお、蹄の強度が失われる恐れがあるので、お湯で洗うことは避けましょう。

●蹄をきれいにし蹄油を塗る



(深野 聡・中川 剛・滝坂信一)